

平野一樹監査委員十五名が本會通を請問し、そのうち  
 會より白米五十石の贈答に謝意を賦へ、宛てて要求書を送  
 呈し、本會を謝り交遊委員を退出し、翌三日五平全島武蔵會  
 権限の土日本不風前大島會の議し、謝意を求むる旨、會論の  
 十名は謝意を求むる旨、會見し、その結果、而して一平全島武蔵會  
 其の謝意を謝し、謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、  
 會見し、全島武蔵會二十名は、謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、  
 會見し、全島武蔵會二十名は、謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、  
 六月二日一審式懸念、朝の首籍、その日ある、香六が本會通、  
 〇 謝意を求むる旨、會見し、其の謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、  
 六月二日一審式懸念、朝の首籍、その日ある、香六が本會通、  
 〇 謝意を求むる旨、會見し、其の謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、

出八 謝意を求むる旨、會論し、其の謝意を求むる旨、

法團 協調會福岡出張所

〇 第二回會見狀況

會社側は前記交渉委員十五名を認めず、従業員代表五名を限り  
 會見に應ず、第三者との會見は無意味なりとの態度に出でた  
 る爲、遂に會見に至らず、更に後刻訪問することにて一應、争議團  
 本部に引揚げた。

〇 會社側の切崩策動と争議團の確執

會社側は、六月二日一番方坑夫が罷業に訴へ、其の後漸時入坑者  
 減少し、三日の一番方入坑者僅か三十三名になりたる爲、直ちに  
 争議中の出勤者に對して「六月三日より争議解決迄採炭、進  
 進、支柱、仕練の各坑夫に對しては入坑手當壹圓。擲取、大  
 工、機械夫に對しては同五拾錢、雜役、保護坑夫には同貳拾  
 錢の臨時特別手當を支給す」との入坑勸告文を作成して入坑